

科学の絶対主義が復活してきたような雰囲気がある。しかし、一方では、進歩とは集団幻想にすぎないという見方も成り立つ。進歩ということに対する現象的なアンチテーゼとして、地球上から消滅した細菌はないことを挙げるべきか。結核菌50年周期説に先見の明ありというべきか。あるいはまた、進歩ではなく、変化したにすぎないとみるべきか。少なくとも、地球は餓えており、そこに住む多くの人類は、宗教戦争に走っていることを事実として認めないわけにはいかない。結核菌に対して無防備な体制は着々とできつつある。集団幻想に酔いしれている分だけ、われわれは退歩しているような気もする。

現実に戻ると、結核の内視鏡所見は格段に見やすくなった。これは進歩の名に値するのではない

か。X線診断について言えば、しぶとく自己主張する担い手がいまだに存在することに安堵する。結核の活動性・非活動性についてだが、これらの定義はどうなっているのだろうか。成書や権威ある論文を紋切り型に引用するのではなく、臨床診断と病理の乖離について疑問の余地はないのか。萎縮瘢痕帯といえども、その下層には炎症性細胞浸潤が存在する。

以上がかつて腸結核の診断にうつつをぬかした1人としての感想である。そして今後、国際化の更なる波と共に、腸結核は復活する可能性がある。これは、地震の予知よりも信憑性がある。

最後に、腸結核の診断にその青春を捧げた先達、白壁彦夫先生が1994年12月29日永眠された。合掌。

胃と腸

4月号(第30巻・第5号) 予告

発売予定 4月25日
定 価 2,060円(税込)

主題/colitic cancer—微細診断をめざして

序 説	東北大・3内	樋 渡 信 夫
主 題	潰瘍性大腸炎における腫瘍性病変のX線・内視鏡診断	松本 主之・他
	病理から臨床へのアドバイス	味岡 洋一・他
	潰瘍性大腸炎のサーベイランスにおける精度の問題	篠崎 大・他
主 題 症 例	潰瘍性大腸炎の経過中にm癌と異型上皮を認めた1例	松川 正明・他
	潰瘍性大腸炎診断後早期に多発性大腸癌を認めた1例	高橋 慶一・他
	潰瘍性大腸炎に合併した結節集簇様病変の1例	岡村 正造・他
	潰瘍性大腸炎に合併した直腸癌の1例	保原 怜子・他
	潰瘍性大腸炎合併大腸癌の2例	篠崎 大・他
	潰瘍性大腸炎に合併した大腸癌の1例	元 鍾 聲・他
	4型大腸癌を合併した潰瘍性大腸炎の1例	為我井芳郎・他
	主題症例をみて—臨床から—	長廻 紘・他
	主題症例をみて—病理から—	岩下 明德・他
今月の症例	1. 直腸の粘膜脱症候群の1例	斉藤 裕輔・他
	2. 胃カボシ肉腫の1例	山田 義也・他

胃 と 腸 (第30巻 第4号)

編 集 早期胃癌研究会

発 行 株式会社 医学書院

代 表 者 金原 優

〒113-91 東京都文京区本郷 5-24-3

☎ 本誌編集室直通 (03) 3817-5714

販売部直通 (03) 3817-5659

1995年3月25日発行(毎月25日発行)

1部定価2,060円(本体2,000円)(配送料124円)

1995年年々ぎめ予約購読料28,000円(本体27,184円)

(増刊号4,120円を含む13冊)(送料弊社負担)

FAX (03) 3815-7802

振替口座 00170-9-96693

印 刷 所 永和印刷(株) ☎ (03) 3813-5001

広告取扱 医界弘報社 ☎ (03) 3814-5771

• Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo. © 1995, Printed in Japan.

• 本誌に掲載された著作物の複写・転載およびデータベースへの取り込みに関する許諾権は医学書院が保有しています。

• **R** <日本複写権センター委託出版物・特別扱い>

• 本誌の無断複写は著作権法上での例外を除き禁じられています。本誌は日本複写権センターの特別委託出版物です。複写される場合は、そのつど事前に日本複写権センター(03-3401-2382)の許諾を得てください。

(担当) 竹中・小松原・江口・長谷川